

はしがき——『湾岸戦争史』刊行にあたって

平成 23 年 9 月に防衛研究所戦史研究センター国際紛争史研究室が発足し、平成 26 年 3 月に『フォークランド戦争史』を刊行しました。その後、平成 28 年から着手し、今回発刊したのがこの『湾岸戦争史』です。

湾岸戦争は、1990 年 8 月のイラクによるクウェート侵攻に端を発し、アメリカ軍を中核とした多国籍軍とイラク軍との間で 1991 年に戦われた戦争です。湾岸戦争については、これまでに多くの書物が刊行されています。しかしながら、特に戦争直後に発刊されたものの中には、不正確な情報に基づく記述も散見されます。また、陸上作戦あるいは航空作戦に焦点を当てるものが多くある一方で、特に日本語文献においては、全体を俯瞰するものが少ないように思われます。

本書は、読者が湾岸戦争の全体像を掴めるよう、現在入手できる資料に基づいて事実関係の整理に努めたものです。なお各章ごとに独立して読めるよう編集したため、内容には一部重複もあります。

第 1 章において戦争の背景を概観した上で、第 2 章から第 4 章にかけて陸上・海上・航空作戦のそれぞれをアメリカ軍の動向を中心に扱い、第 5 章から第 7 章にかけて統合作戦、アメリカ軍以外の多国籍軍の作戦、政治外交の各視点から同戦争について述べます。

執筆は石津朋之戦史研究センター長を主査として、のべ 9 名が担当しました。なおここに示された見解は、執筆者個人のものであり、防衛研究所または防衛省の見解を代表するものではありません。

令和 3 年 3 月
戦史研究センター国際紛争史研究室